

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2014

課題番号：22520770

研究課題名(和文)九州南部における古墳時代鉄器の基礎的研究

研究課題名(英文)Basic study of the Kofun period ironware in southern Kyushu

研究代表者

橋本 達也 (Hashimoto, Tatsuya)

鹿児島大学・総合研究博物館・准教授

研究者番号：20274269

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：九州南部では当該地域独自の古墳時代墓制である地下式横穴墓・板石積石棺墓から良好な遺存状態の副葬鉄器が多量に出土しているが、従来、その資料自体の研究が十分に進んでいるとは言い難い状況にあった。そこで、本研究では研究目的に即した重要資料の実測図作成、写真撮影、X線写真撮影、顕微鏡観察など、基礎的調査を積み重ねた。

また、地域の側から資料に即した九州南部古墳時代社会の特質を明確にするために、他地域資料との比較によって生産流通・地域間交流・墓制の研究を統合的に進めた。その成果は論文、研究発表や研究報告書を刊行して明らかにした。地域の側からみた古墳時代社会の一端に迫り得たと考えている。

研究成果の概要(英文)：Burial of an ironware of good Remainder condition excavated it abundantly from the underground cave grave, flat stone stone-piling coffin grave which was this area original grave system in South Kyushu, but there was it in the situation that was hard to say that a study of object in itself advanced to before enough. Therefore I piled up measured drawing making, the photography, X-rays photography and microscopy investigation of the important object in line with a study purpose. In addition, I pushed forward the study of the interchange, grave system between the production circulation, areas of the Kofun period in a characteristic of South Kyushu clear in line with an object from the local side. The result was an article, presentation of the results of the study and showed it, and the generalization of the result published working papers as "a basic study of the Kofun period ironware in South Kyushu".

研究分野：考古学

キーワード：考古学 古墳時代 九州南部 鉄器

1. 研究開始当初の背景

古墳時代社会の南の境界領域となった九州南部では、この地域に形成された独自様相の結果として7世紀後半以降には古代国家によって異民族・隼人という区分が設定される。しかし、地域側の視点に立てば境界周縁域は単なる後進地域ではなく、外部世界との多文化接触域として多様な個性を形成しつつ変容する地域という側面も備えている。すなわち、広域展開した古墳時代社会の理解には地域間関係の相対化という視点が欠かせない。しかしながら、これまで九州南部では古墳時代墓制に熊襲・隼人などのイメージを重ね、“特殊”あるいは“遅れた”地域として捉えてきたことで、相対的な地域間比較といった考古学による古墳時代研究は立ち遅れてきた。

これらの問題意識にたち、いまだ十分ではない九州南部の古墳時代社会の考古学的な研究をさらに進めようとするとき、もっとも有効な資料が数量的に豊富で、形式的な多様性を持ち、遺存状態も良好な鉄器である。

九州南部の古墳時代資料では前方後円墳や当該地域独自の墓制である地下式横穴墓・板石積石棺墓から副葬品として良好な遺存状態の鉄器が多量に出土している。それらは、一般的な錆びて出土する古墳時代鉄器とは異なり、本来の形状・構造・技術の解明に大きく役立つものである。そして、その内部には広域共通型式や地域独自型式などの多様性が含まれており、その生産から保有、流通に至る構造の分析によって、この時代の社会のさまざまな側面に焦点を当てることが可能となる。

しかしながら、従来、九州南部の古墳研究そのものが活発とは言い難く、その資料自体の分析に基づいた研究が十分に進められてきたとは言い難い状況にあった。そもそも、資料報告において十分な精度を保っていないものも多い。

すなわち、良好な資料が蓄積されている一方で、基礎的な研究は不十分であるといった状況にあり、その改善が必要であった。

2. 研究の目的

本研究は九州南部における古墳時代社会の地域間関係に関する考古学的研究を進めるために、古墳時代鉄器の基礎的研究を主題とした。

本研究では九州南部の古墳・地下式横穴墓・板石積石棺墓出土の副葬鉄器の資料調査、型式学的研究に基づき、時間軸・空間分布を明確にしつつ、当該地域における古墳時代社会の共通化と個性化の展開を考察する。これをもとに、他地域資料との比較研究を進め、古墳時代の生産流通・地域間交流・墓制の研究を統合的に進める。その上で地域の側から日本列島国家形成期における境界領域の構造とその変遷にも焦点を当てようとするものである。

実際には、九州南部の古墳時代鉄器は十分な分析がなされて報告されたものが少ない。またその分析方法も資料の性質を十分に活かしたものは少ない。その状況をかんがみ、重要資料の資料調査を進めることを軸に据えた。

3. 研究の方法

(1) 基礎的資料調査：研究目的に即して九州南部古墳時代を考察する上で重要資料とみなされる資料の実測図の作成、写真撮影、X線写真撮影、顕微鏡観察など基礎データの集積をはかり、それらの分析を行った。その中心的な資料は武器・武具である。

(2) 比較検討：九州南部古墳時代社会の特質を明確にするためには、他地域との比較研究が必須である。共通圏形成の情報を発信している近畿、九州南部に影響を及ぼす可能性が高い九州北部、古墳時代の周縁域として比較の必要な東北地方などの資料を中心に比較研究を進めた。

4. 研究成果

本研究では研究目的に即した重要資料に関する基礎的な調査を積み重ねた。その上で当該地域の特性を明らかにすべく、近畿中央部をはじめ他地域との比較を行い、独自性と広域共通性から、多元的な古墳時代史像を明らかにしようとして取り組んだ。

(1) 九州南部の重要資料の基礎的調査では、具体的には、えびの市島地下式横穴墓群、同市小木原地下式横穴墓群、宮崎市下北方5号地下式横穴墓、肝属郡肝付町北後田地下式横穴墓群、曾於郡大崎町神領10号墳出土資料などを重点的な対象とした。

サビの少ない良好な遺存状態ならでの、さまざまな技法について(甲冑の花弁状打痕、充填穿孔、鉄板を留めない鉄など、写真1・2)、資料の慎重な観察を行った上で、その細部情報の共有化を図るために高精細写真の撮影にはとくに力を入れた。



写真1 花弁状打痕

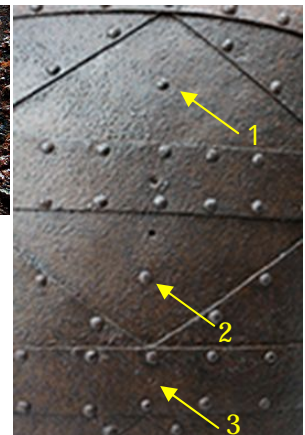


写真2 鉄板を留めない鉄 (矢印1・2)、充填穿孔 (矢印3)

データ集積後、整理作業を行い、その成果の多くは後述する研究報告に収載し、公刊している。

(2) 基礎資料調査を進めつつ、北部九州・近畿・東北地方などの資料との比較検討を行い、古墳時代の生産流通・地域間交流・墓制の研究を統合的に進め、地域の側から資料に即した日本列島国家形成期における境界領域の構造とその変遷に焦点を当てた研究を発表した。

地域比較ではとくに東北地方東部の福島県浜通り地方から仙台平野の情報、西部の新潟地方の情報収集に力を入れ、地域間交流ネットワークのあり方から、九州南部地域との共通性・非共通性を検討した。結果、仙台平野と大隅地方、浜通り地方・新潟平野と薩摩地方などで、物流ネットワークのあり方の共通性がうかがえ、そこに近畿中央政権が発する古墳時代の政治性がうかがえることも明らかにした。

資料情報集積と比較検討を通して、九州南部の鉄器生産技術レベルに起因して、古墳時代中期にこの地域でのみ存在する在地形式を明確にとらえることができた(図1)。

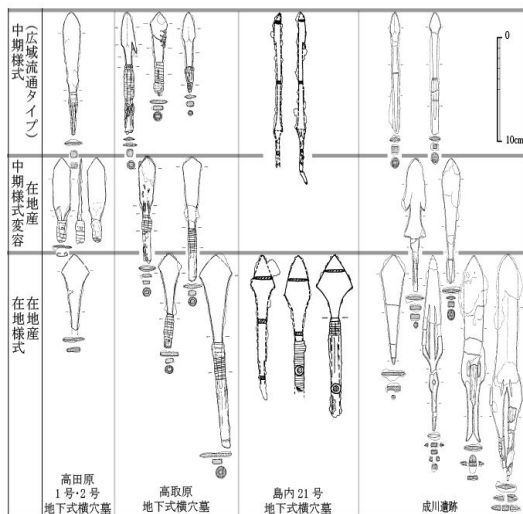


図1 九州南部の鉄製の諸相

すなわち、古墳時代中期は従来、近畿中央部で生産された鉄器が広く地方に配布されていると考えてこられたが、九州南部の独自鉄器のあり方はそれを否定し、製品配布以外に在地生産も相当数存在することを示した。

それによって、鉄製品の政治的重要性、技術レベルに応じた生産構造を明らかにし、甲冑以外の鉄製武器などは地方でも生産されたが、古墳時代中期には鉄素材の管理とともに、生産情報は近畿中央から発信され、地方様式が生じにくいような構造化がなされていたことを論じた(図2)。

従来の研究では古墳時代中期鉄製品は全国的な斉一性が強く地方様式の研究が進んでいなかったことで、地方生産がとらえにくく、研究が進んでいなかったため、古墳時代後期に地方での鉄器生産が開始することを

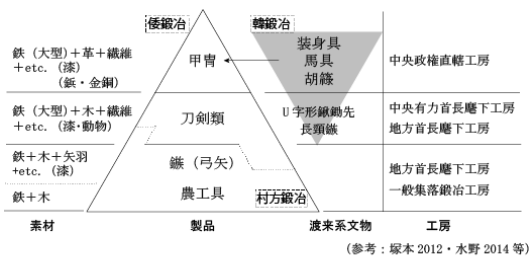


図2 生産技術からみた古墳時代中期の武器・工具とその関連製品の階層構造および工房

軸に多くの議論がなされてきたが、実際にはそれは規格性の弛緩によって地方様式が見えやすくなることによるものであることを指摘し、あらたな古墳時代の日本列島の鉄器生産の地方拡散過程を示した(図3)。

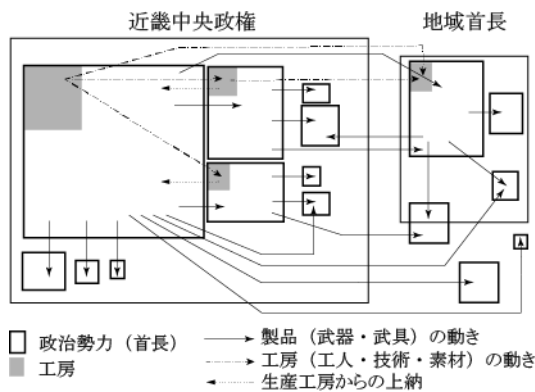


図3 武器・工具の生産・流通形態

研究成果は論文、学会発表等で順次明らかにしてきたが、最終的な総括は、『九州南部における古墳時代鉄器の基礎的研究』として、研究終了時に、論考と資料報告を収載した研究報告書を作成、刊行した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 7件)

橋本達也 2015「古墳時代中期の武器・武器生産」『季刊考古学・別冊22 中期古墳とその時代 5世紀の倭王権を考える』雄山閣 出版 99~110p 査読無

橋本達也 2014「西都原4号地下式横穴墓の装身具」『宮崎県立西都原考古博物館紀要』第10号 宮崎県立西都原考古博物館 50~57p 査読無

橋本達也 2014「九州南部における古墳築造の動態と南北周縁域の比較」『古墳築造周縁域における古墳時代前・中期の社会と地域間関係』第19回東北・関東前方後円墳研究会大会発表要旨資料 第19回東北・関東前方後円墳研究会大会実行委員会 89~99p 査読無

橋本達也 2012「古墳時代甲冑研究の現状」『国立歴史民俗博物館研究報告』第173集 国立歴史民俗博物館 565~608p 査読無

橋本達也 2012「倭王の武装 巨大古墳

の時代を彩った武器武具の語る社会』『漆黒の武具・白銀の武器 - 百舌鳥古墳群と五世紀の動乱 - 』第3回百舌鳥古墳群講演会発表資料集 堺市文化観光局文化財課 12~21p 査読無

橋本達也 2012「地下式横穴墓とはなにか」『南九州とヤマト王権 日向・大隅の古墳』大阪府立近つ飛鳥博物館図録 58 大阪府立近つ飛鳥博物館 139~146p 査読無

橋本達也 2012「九州南部における島内地下式横穴墓の位置づけ」『シンポジウム 島内地下式横穴墓群出土品の評価と被葬者像』予稿集 えびの市教育委員会 27~32p 査読無

橋本達也 2012「古墳築造周縁域における境界形成 南限社会と国家形成」『考古学研究』第58巻4号 考古学研究会 17~31p 査読有

橋本達也 2011「九州」『季刊考古学』第117号 雄山閣出版 71~76p 査読無

〔学会発表〕(計 4件)

橋本達也 2014.2.15「九州南部における古墳築造の動態と南北周縁域の比較」第19回東北・関東前方後円墳研究会大会『古墳築造周縁域における古墳時代前・中期の社会と地域間関係』(新潟市歴史博物館・新潟)

橋本達也 2013.2.23「築造南限域の古墳の展開と特質」『東京国立博物館特別講演会・日本考古学会第74回例会 南九州の古墳文化 日本古代国家成立と九州南部地域文化の展開』(東京国立博物館・東京)

橋本達也 2011.8.28「古墳築造周縁域における境界形成 - 南限社会と国家形成 - 」『考古学研究会 第57回研究集会』(岡山大学・岡山)

橋本達也 2011.4.09「古墳・隼人・国家形成 - 境界領域の形成過程 - 」『隼人文化研究会 第417回例会』(黎明館・鹿児島)

〔図書〕(計 4件)

橋本達也 他12名 2014『古墳と続縄文文化』高志書院 全308p(「九州南部の古墳築造と南北周縁域の比較」29~44p 執筆)

橋本達也 他1名 2014『九州南部における古墳時代鉄器の基礎的研究』鹿児島大学総合研究博物館 全83p(1~15p、31~83p 執筆)

橋本達也 他13名 2012『古墳時代の考古学 7 内外の交流と時代の潮流』同成社 全197p(「九州南部と古墳文化」133~145p 執筆)

橋本達也 他16名 2012『古墳時代の考古学 2 古墳出現と展開の地域相』同成社 全231p(「九州南部」107~117p 執筆)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

国内外の別:

取得状況(計 0件)

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

橋本 達也 (HASHIMOTO, Tatsuya)

鹿児島大学・総合研究博物館・准教授

研究者番号: 20274269

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし